

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年3月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

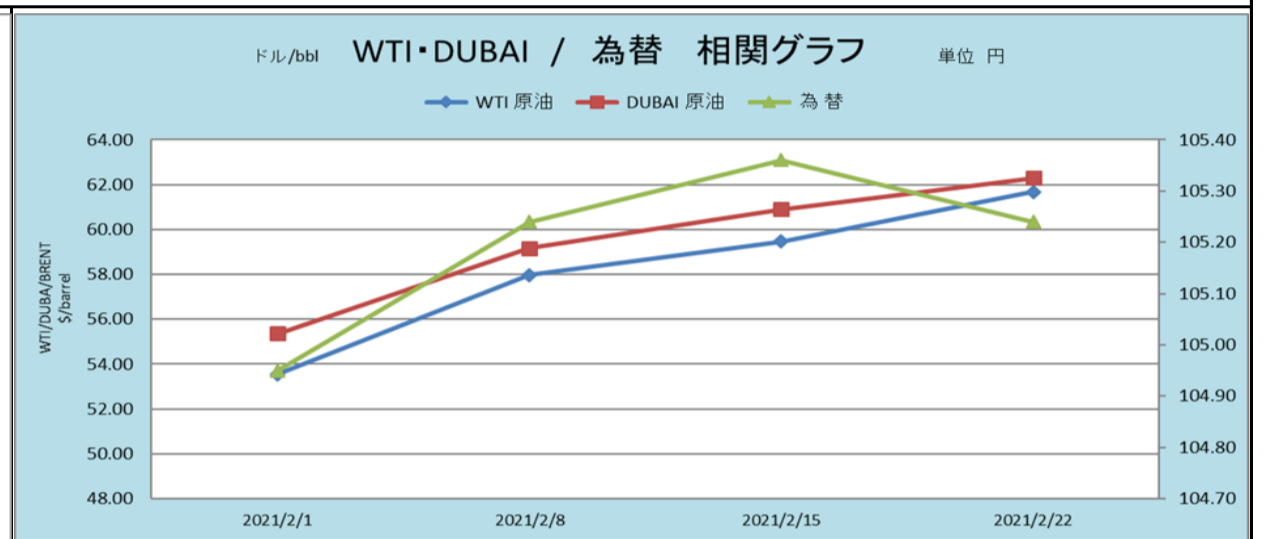
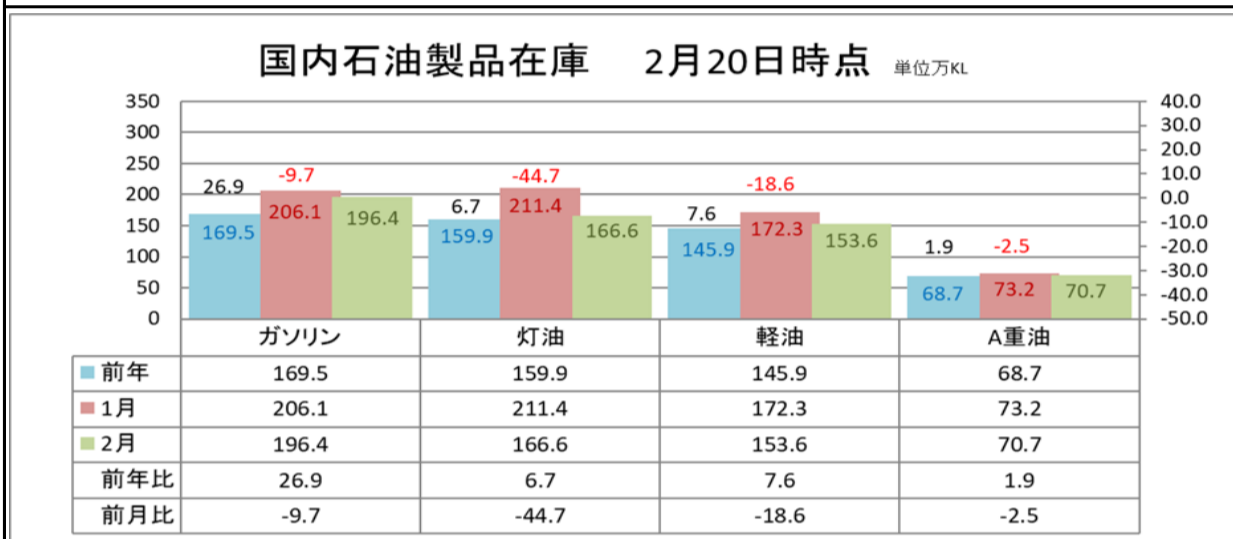
●第1週、週末2/5のWTI原油は、先週比4.65ドル高の56.85ドルとなり昨年1月下旬以来約1年ぶりの高値を更新しました。米議会民主党は1日、新型コロナウイルス経済対策として総額1兆9000億ドルの予算案を上下両院に提出しました。迅速な成立で景気回復が進みエネルギー需要が促されるとの期待が高まりました。また、米北東部を中心とした大雪や低温でヒーティングオイル需要が高まったことやサウジアラビア主導の大幅な協調減産が続くことも原油の押し上げ材料となりました。また米エネルギー情報局(EIA)が3日発表した週報で米原油在庫は先週比100万バレル減少し昨年3月27日の週以来の低水準になり投資家心理を支えました。

●第2週、週末2/12のWTI原油は、先週比2.62ドル高の59.47ドルとなりました。バイデン米大統領が掲げる大型追加経済対策の実現期待や新型コロナウイルスワクチン普及による経済正常化への思惑が、投資家のリスク選好意欲を支えています。需給面では、石油輸出機構(OPEC)主導の協調減産に加え、サウジアラビアによる自主的な追加減産で、供給過剰への警戒感が後退しました。米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比660万バレル減と市場予想の100万バレル増に反して取り崩しとなりました。またEIAは、2021年の原油生産見通しを日量1102万バレルと、従来予想の日量1110万バレルから下方修正したことも重なり、需給不均衡に対する警戒感が後退し原油が買われ昨年1月上旬以来となる60ドルの大台目前に迫りました。

●第3週、週末2/19のWTI原油は、先週比0.23ドル安の59.24ドルとなりました。米国の主要な石油関連施設が集積するテキサス州は、前週末歴史的な寒波に見舞われ気温が氷点下となりました。エネルギー各社は、製油所の稼働停止や天然ガスパイプラインの操業制限を実施したため国内全体の少なくとも5分の1の原油能力が打撃を受け原油が買われ一時62.26ドル台を付けました。しかしその後、寒波の影響を受けた地域の電力と水道が復旧しつつあり、石油関連各社が施設の再稼働の準備を始めたとの報道があり供給懸念などを背景とした買いが一服し利益確定売りが台頭しました。またサウジアラビアが、最近の石油価格の持ち直しを受け、数か月以内に産油量を増やす計画があると報道を受け売りが膨らみました。

●第4週、週末2/26のWTI原油は、先週比2.26ドル高の61.50ドルとなりました。米南部テキサス州などを襲った異例の厳しい寒波による生産・供給網の復旧遅延をめぐる根強い警戒感が広がる中、原油は買われました。米エネルギー情報局(EIA)によると、寒波の影響で19日までの週の原油生産量は、日量110万バレル減少しました。製油所の原油処理量も2008年以来的水準に落ち込んだと伝わりました。一方で、米株価が市場最高値を更新したことにより景気回復期待を背景にエネルギー需要見通しに楽観的な見方が広がり原油買いを後押ししました。しかし米エネルギー情報局(EIA)が発表した統計では、原油在庫が前週比130万バレル増と市場予想の520万バレル減に反して積み増しとなりました。またOPECプラスが3月4日に予定する会合では、最近の石油価格の回復に対応して現行の協調減産措置を4月から縮小する方針とみられています。

	2月平均	WTI原油	59.06ドル	前月比	6.96ドル	為替 1ドル	106.37円	前月差	1.68円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------



ENEOS	日付	変動幅	出光昭和シェル	変動幅
	1/28~2/3	±0		±0
2/4~2/10	+0.5	+0.5		
2/11~2/17	+2.5	+2.5		
2/18~2/24	+1.5	+1.5		
2/25~3/3	+1.0	+1.0		

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	2020年10-12月C重油決定価格	0.5HPP	40,920	ENEOS LS船用燃料油基準価格	【40,920(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	2021年1-3月C重油仮価格	46,980	48,980	【46,980(メニュー)+2,000(プレミアム)】	
2021年1-3月C重油決定価格			【(メニュー)+2,000(プレミアム)】		
決定価格10-12月比					

内航燃料油価格推移	2020年10-12月(決定価格)	適合油価格	48,000	A重油	51,700
	2021年1-3月(仮価格)	53,500			
2021年1-3月(決定価格)					
決定価格10-12月比					

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	21/1	9桁速報	32,625	50.09	103.55	3,502
21/2	最終予測	37,175	56.56	104.49	4,550	
21/3	展望	40,199	61.16	104.50	3,024	
21/4	展望	41,469	62.79	105.00	1,270	

【2月市況】

●第1週の元売価格変動幅は、「+0.5円」の値上げでした。原油コストはほぼ横ばいでしたが、サウジアラビアからの調整金「+0.5」が仕入れに加味された形です。月初から原油相場も上昇傾向でしたので、改定が+0.5に対し、市況の上昇が改定幅以上に進みました。ただ引き続き需要の少ないことから市況が油種によってはENEOSの先行指標と2.0円以上乖離している状況です。

●第2週の元売価格変動幅は、「+2.5円」の値上げでした。2月初めからの原油相場の上昇傾向により原油コストも上昇していました。原油相場も上値は重くなってきたものの、来週も値上げが見えているために、月間リンク玉の売り込みはまだ本格的とはなっていないようです。そのため市況としては、改定幅分値上げが進みましたが、元々市況が安いところからの応分の値上げでしたので、市況の改善には繋がっていない状況です。

●第3週の元売価格変動幅は、「+1.5円」の値上げでした。コスモの改定日のズレや月間リンク玉での対応により、市況の上げ幅が抑えられ、コスモの仕切りが上がるも、そのままの相場観で業者間取引が続いている状況です。

●第4週の元売価格変動幅は、「+1.0円」の値上げでした。コスト予測は+1.0円と+1.5円で二分していましたが、予想よりも上がらなかったと感じたディーラーが多かったようです。市況は月内枠を消化し終えたディーラーとまだ残しているディーラーで価格も二極化しており、エリアによってもその状況はまちまちとなっています。

【3月価格変動要因】

●需要面: 新型コロナウイルスワクチン接種の進展により景気回復期待感が広がりエネルギー需要見通しにも楽観的な見方が広がっています。以前よりマインドは上昇していますが、全体的には、需要面はやや弱いです。

●供給面: 米南部テキサス州を襲った寒波の影響で19日までの原油生産は日量110万バレル減の970万バレルとなりました。通常の体制に戻るまでに数週間かかる見通しです。しかし3月4日に予定されているOPECプラスの会合で現行の協調減産措置が4月から縮小の可能性があります供給が拡大すると見られています。

●リスク資産(金融市場): マネーが株式や商品といったリスク資産に向かい、投資家がリスクを取る姿勢が鮮明となっています。そのため株価や銅や原油など商品価格も高値圏となっています。しかし長期金利上昇でドルが上昇していけばドル建てで取引される商品に割高感が生じ原油売りの要因となります。

●地政学: バイデン大統領体制になりシリアの軍事施設を攻撃するなどトランプ大統領体制から比べると地政学的リスクが上昇しています。またサウジアラビアの首都リヤド上空で弾道ミサイル1発が迎撃されたほか、南部の複数の地域で爆発物を積んだ無人機6機が破壊されました。サウジが内戦に介入しているイエメンの武装組織フーシ派が、攻撃を認めています。

〈価格見通し〉		(単位: US/bbl)	
	Brent	WTI	
High	70	67	
Average	65	62	
Low	60	57	

日付	国	3月経済指標カレンダー	日付	国	3月経済指標カレンダー
1	米	2月ISM製造業景況指数	11	米	欧州中央銀行(ECB)政策金利・総裁定例記者会見
2	欧	2月消費者物価指数(HICP、速報値)	16	米	2月小売売上高
3	米	2月ADP雇用統計(前月比)	17	欧	2月消費者物価指数(HICP、改定値)
3	米	2月ISM非製造業景況指数	17	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)政策金利発表
5	米	2月非農業部門雇用者数変化	17	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
5	米	2月失業率	25	米	10-12月期 四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
5	米	2月平均時給	26	米	2月個人消費支出(PCIデフレーター)
9	欧	10-12月期 四半期域内総生産(GDP、確定値)	31	欧	3月消費者物価指数(HICP、速報値)
10	米	2月消費者物価指数(CPI)	31	米	3月ADP雇用統計(前月比)